

京都府の地震活動

令和5年（2023年）4月

第36巻第4号

京都地方気象台

目次

震央分布図、概況	・・・1
震央分布図、断面図	・・・2
京都府南部での地震活動について④	・・・3
令和5年度緊急地震速報訓練について	・・・4

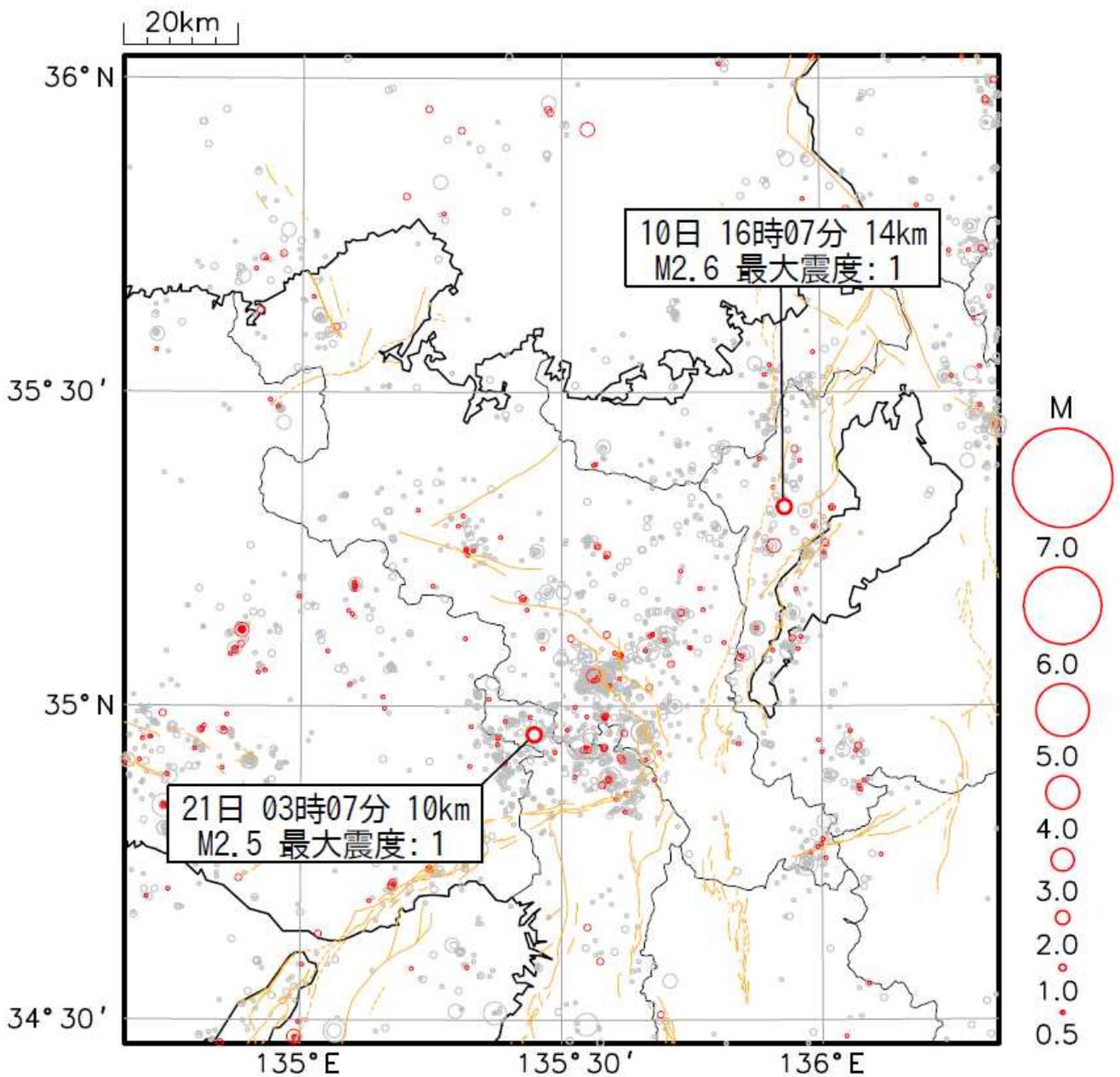
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



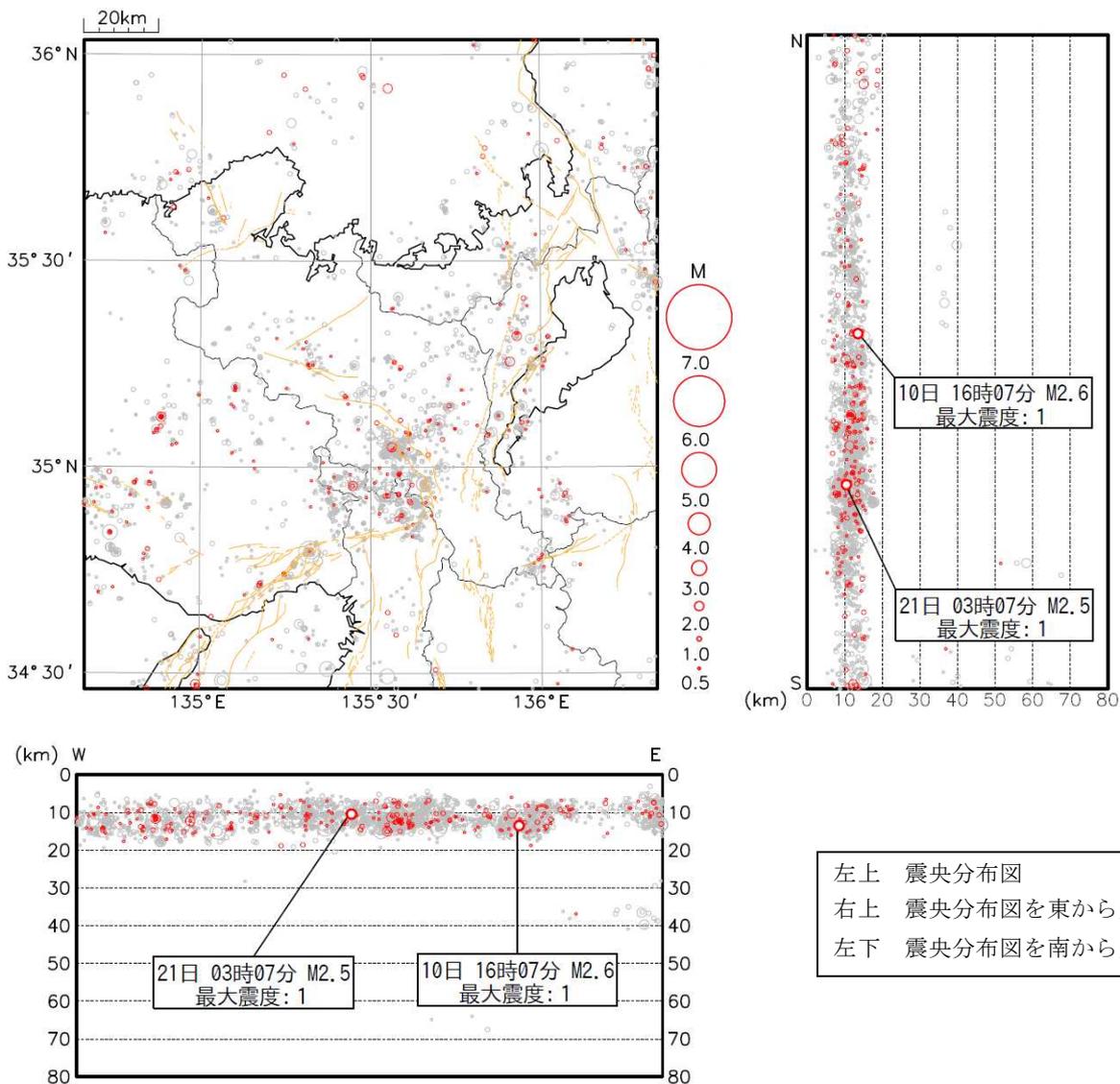
- ・（2022年5月1日～2023年4月30日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2023年4月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに応じたサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・オレンジ色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

4月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は7回、震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした（3月はそれぞれ8回、0回）。

4月中、京都府内で震度1以上を観測した地震はありませんでした（3月は0回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・（2022年5月1日～2023年4月30日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2023年4月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

京都府南部での地震活動について④

2022年3月31日に発生し、京都府内で最大震度4を観測した「京都府南部の地震」から1年以上経過したことにより現在(2023年5月1日)の活動状況を掲載します。なお、過去の活動状況については、2022年の京都府の地震活動資料(4月号、5月号、6月号)の一口メモをご覧ください。

2022年3月31日23時34分に京都府南部を震源とする地震が発生し、京都府内で最大震度4を観測、その後しばらくの間地震活動が活発化し、6月までの約3か月の間に震度1以上を観測する地震が計15回(震度4:2回、震度3:2回、震度2:4回、震度1:7回)発生しました。2022年1月1日から2023年4月30日までの京都府南部の地震活動の分布をみると、マグニチュード4以上の地震は四角内領域で発生しています(図1)。6月頃から地震活動はやや減衰しながらも継続していましたが、10月に入ると地震活動は低調となり、地震回数を見ると、現在は2022年3月31日に発生した京都府南部の地震発生前の活動レベルにほぼ戻っています(図2)。ただし、今後、地震活動が再び活発化するおそれもありますので、いつ地震が起きても対応できるよう十分な備えや訓練をお願いします。

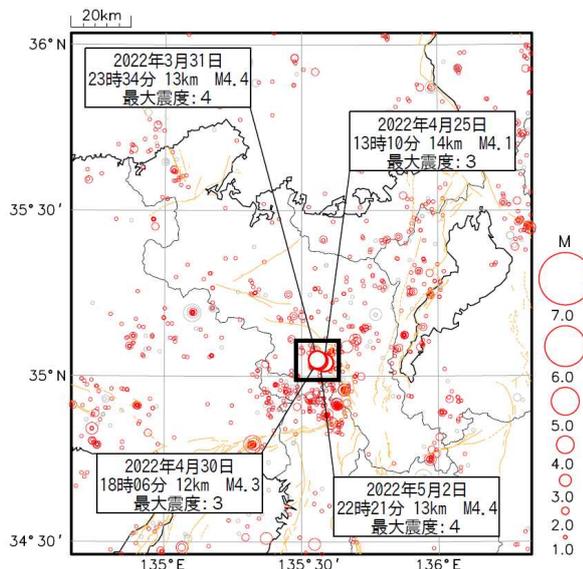


図1 震央分布図(2022年1月1日～2023年4月30日)。深さ0～30km、マグニチュード1.0以上、吹き出しはマグニチュード4以上の地震、橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す)

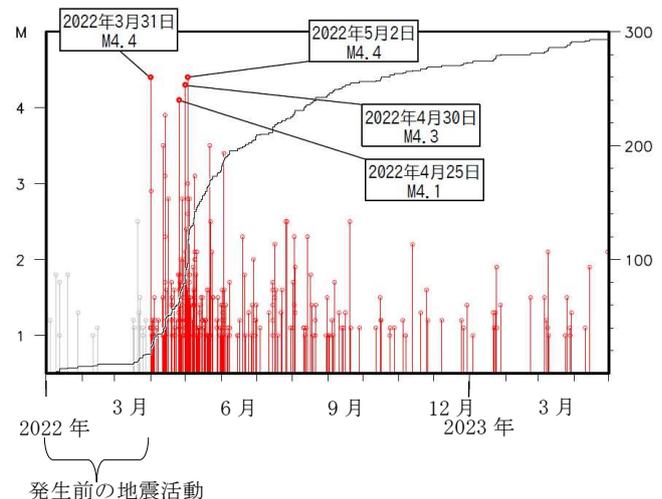


図2 図1の四角領域内のM-T図及び回数積算図(横軸:時間、縦軸左:マグニチュード、縦軸右:地震回数。吹き出しは図1と同様)

京都地方気象台ホームページ「京都府の地震活動(定期刊行物)」

<https://www.data.jma.go.jp/kyoto/index.html>

令和5年度緊急地震速報訓練について

内閣府、消防庁、気象庁は、都道府県、市町村と連携し、平成20年度より年2回、緊急地震速報の全国的な訓練を実施しており、今年度も下記日程で実施する予定です。

第1回 6月15日(木) 午前10時00分頃

第2回 11月2日(木) 午前10時00分頃

※ただし、気象・地震活動の状況等により訓練用の緊急地震速報の発表を急遽中止することがあります。

訓練は、全国瞬時警報システム(Jアラートという)を活用して、緊急地震速報を住民の皆様へお知らせします。情報伝達手段は地方公共団体によりますが、防災行政無線を利用する場合もあり、また、外出先の建物が館内放送で伝達することもあります。

緊急地震速報は、情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。その短い間に身を守るための行動を取る必要があります。

緊急地震速報を見聞きしたときの行動は、まわりの人に声をかけながら「周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する」ことが基本です。

しかし、緊急地震速報は、頻繁には発表されない情報のため、慣れていないことが多いですが、発表された時は、素早い判断、行動が求められます。したがって、訓練等を通じて、いつでも適切な行動がとれるよう備えておく必要があります。

なお、今回の訓練の機会にとらわれず、気象庁が提供している訓練用動画を利用して普段でも訓練を実施することも可能です。

これら緊急地震速報訓練の詳細は、気象庁ホームページをご覧ください。

気象庁ホームページ「緊急地震速報を活用した訓練について」

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/kunren/kunren.html>



安全確保行動 1-2-3 出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議 (<http://www.shakeout.jp/>)

気象庁ホームページ「緊急地震速報を見聞きしたときは」

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/koudou/koudou.html>